

特定外来生物クビアカツヤカミキリの調査結果と対策について

1 調査結果

懐古園内（馬場）のさくら（ソメイヨシノ）2本にクビアカツヤカミキリの被害が確認された。

2 経過

R8.9.28（月） 小諸公園エリア内において、長野県 環境部 自然保護課は、委託した調査員4人により、特定外来生物クビアカツヤカミキリの全木調査を実施し、懐古園の馬場のサクラ（ソメイヨシノ）2本において、クビアカツヤカミキリのフラス（うどん状の木くずと幼虫のフンの混ざったもの）を確認し、被害の可能性が高いことから、サンプル検査を実施。

R8.10.1（木） 県プレスリリース（別紙）

県は検査の結果、小諸市（懐古園内馬場）においてクビアカツヤカミキリ（特定外来生物）による被害と断定。小諸市において被害が初確認と発表された。

3 緊急防除

（1）被害木とその周辺木への樹幹注入（県 環境部 自然保護課 より指示）

樹幹注入農薬『ウッドスター』を幹の根元に10 cm間隔で4 ml注入し、内部の幼虫を死滅させる。

県から譲与された農薬1本（450ml）により、10/1（木）、2（金）の2日間で被害木2本と周辺木3本を緊急防除済み。

（2）緊急防除エリア内の薬剤散布（県 環境部 自然保護課 に相談）

樹体散布農薬『アクセルフロアブル』（500 ml 200 倍希釈）を幹の高さ概ね2mから根本まで、幹の割れ目内に浸透させるまで十分に薬剤を散布し、成虫及び幼虫を死滅させる。

県から譲与された農薬5本により、被害が確認された懐古園内馬場を優先的に緊急防除済み。

4 今後の対応

防除計画を策定し、被害拡大の防止を図る。